

キャンプファイヤー

宿泊学習には、やはりダイナミックなキャンプファイヤーは入れておきたいところ。日常、大きな炎を見る機会のない児童にとって、間近でその熱さや明るさを感じることは、何より思い出に残るものです。天候によって左右されたり、雨天時用のレクやキャンドルを用意するなど準備が大変ですが、ぜひとも体験させておきたいプログラムの1つです。

- 《 対象季節 》…春・夏・秋 ※12月以降の冬季は要相談
- 《 対象学年 》…4年生以上
- 《 時間 》…1時間～1時間半
- 《 活動場所 》…キャンプファイヤー場
- 《 持ち物 》…個人 ◇安全な服装 ◇虫除け
学校 ◇音楽CDなど ◇分火・着火に使うトーチ
- 《 キャンプファイヤーの意義 》



自然界にとって、炎はそれらを焼き尽くすもの。太古の昔より人間は炎を畏れるが、上手に使うことで生活に生かしてきた、なくてはならないもの。夜の帳が下りてくる夕方、集まった人たちはみな炎を囲んで語り合い、歌い、踊る。そうした活動の中でさらにお互いの絆を感じたり、自分を見つめなおす時間にしたたり、人々は炎を見つめながら様々なことを感じ取る。

キャンプファイヤーのスタンダードは3部構成。第1部は火の神（女神）から今宵を盛り上げるために大事な炎を受け取る厳粛な儀式。第2部は参加者たちが歌い、踊り、お互いの親睦を深める時間。第3部は炎を火の神（女神）に返し、友情やそれぞれの思いを誓う儀式となることが多い。

《 展開例 》

時間	展開	留意点
第1部 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○薪を囲んで参加者は円を作る。 ○司会者（エールマスター）の進行で、儀式を進める。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 火の神（女神）、火の子の入場 歌 『遠き山に日は落ちて』 など 2. 分火の儀式 炎に誓いを立てる。 3. 点火 歌 『燃えろよ燃えろ』 など 4. 火の神（女神）、火の子退場 	<ul style="list-style-type: none"> □会場に入る前に、児童の気持ちを作っておきたい。 □火の神（女神）、火の子の待機場所や入場の仕方、分火の仕方は事前に練習しておくとうい。 ※アレンジバージョン 『ファイヤーアロー』 別記
第2部 40分～ 70分	<ul style="list-style-type: none"> ○司会者（エールマスター）の進行で、参加者たちのレクやスタンツ、ダンスや歌など、親睦を深める活動を行う。 ○雰囲気ガラッと変えられるよう、司会者（エールマスター）や参加者への慈愛の雰囲気を果たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> □事前に十分な練習が取れない場合は、即興でやるのも面白い。 □炎の明かりは暗めになるので、スタンツの内容は考えたい。
第3部 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○司会者（エールマスター）の進行で、誓いの儀式を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 火の神（女神）の入場 2. 火の神（女神）から、今宵の話を聴く。 3. 歌 『今日の日さようなら』 など 4. 火の神（女神）の退場 5. 参加者退場 	<ul style="list-style-type: none"> □厳粛な雰囲気に戻るまで、待つことも大事。 □楽しかった1日を振り返るとともに、普段の自分を見つめなおす時間にしたたい。 ※アレンジバージョン 『ファイヤーロード』 別記

上記展開例は、あくまで例であり、実施する団体、学年等に応じてアレンジを加えてもよい。